

資料3

論点ペーパー：駅構内カメラ

2016年10月7日

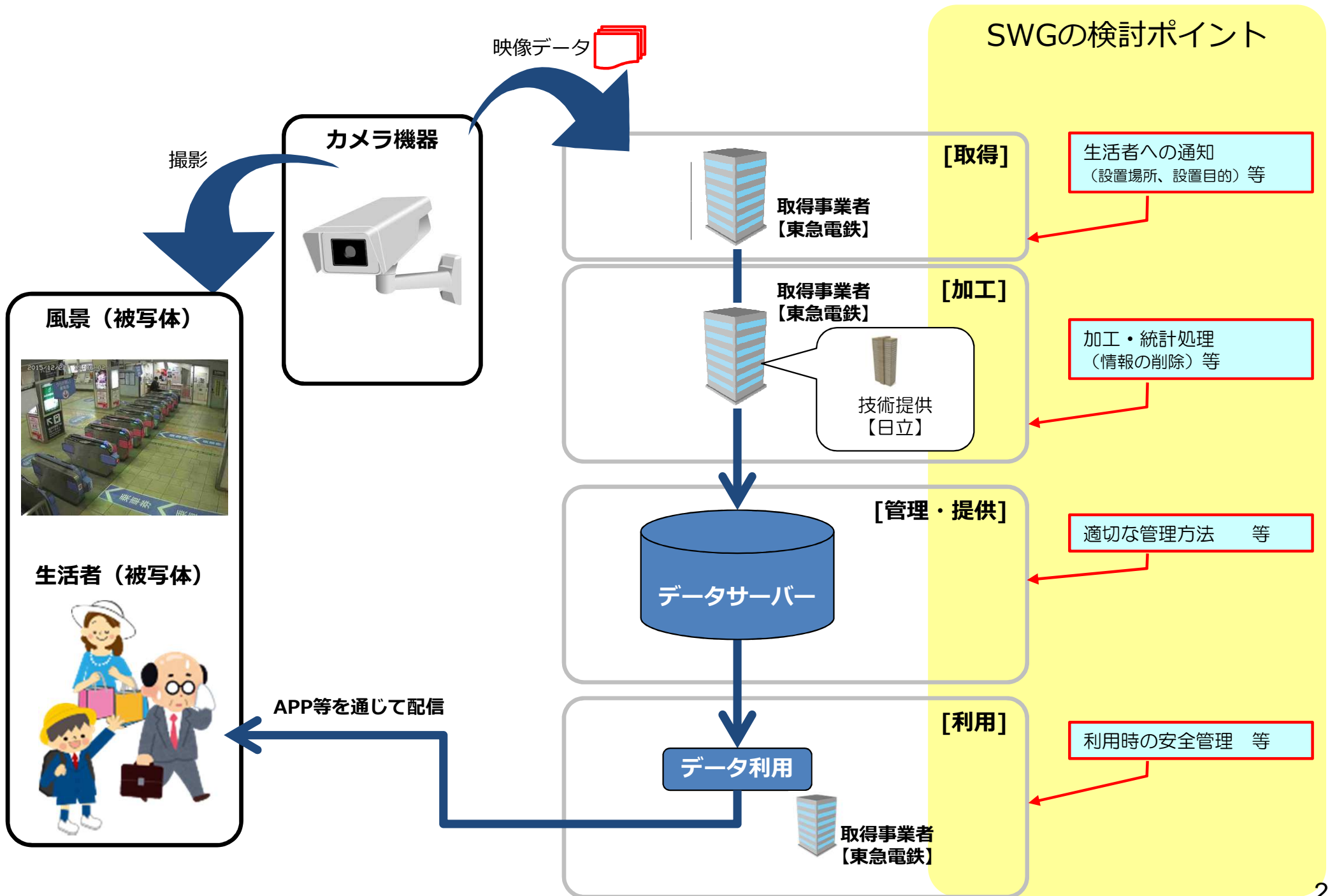
カメラ画像利活用SWG 事務局

事業者紹介事例へのご意見

ご意見頂きたい点は、以下2点。

- 事業者が実施している周知活動にて、サービス開始にあたり問題ないと考えられるが、その他の施策は考え得るか。
 - ・改札前でのポスター掲示
 - ・公式HP上でのリリース掲示
- 事業者は加工において、人数のみを視覚的に把握できるように加工している。プライバシー保護の観点上、問題となる点はないと考えるが、サービス観点と照らし合わせて、より良い方策は考え得るか。

本ユースケースのプレイヤーと検討ポイントの整理



駅構内カメラ活用の論点について：取得時の配慮

サービス実施に際し、以下の方法にて周知を図っている。
このほかに行った方が良い対応等は考えられるか。

通知方法	通知場所	時期
ポスター掲示による通知	撮影対象となる改札口近辺	実証実験実施期間中
ニュースリリースによる告知	公式ホームページ上	・実証実験開始前日 ・機能改修日当日 ・正式運用の半月前
アンケートによる意向確認	アンケートサイト	適時（現状、2回実施） ※対象は沿線顧客の一部

【参考】アンケート結果

対象：沿線顧客（約7,000名ずつ、2回実施）

- ・サービス受容性：約9割が本取り組みが社会的に受け入れられると回答
- ・サービス利用意向：約9割が自分の利用駅で実施されれば利用したいと回答
→うち2割が、平常時でも活用できると回答

【参考】各種掲示文面は別紙（参考資料2、3）の通り

→通知内容として、以下を明記している。

- ・実施主体者（東急電鉄）
- ・問い合わせ先
- ・利活用目的とメリット
- ・カメラ設置位置および撮影範囲
- ・生成される情報の内容
- ・提供（配信）開始時期

駅構内カメラ活用の論点について：推奨される安全管理措置

現状想定されている安全管理措置について、セキュリティ上の観点から、下表の対応で不足する事項はあるか。

対象	観点	対応
データ保存	データ保存先	リアルタイム画像はシステム上で即時解析 →情報生成後、画像データは破棄される。 加工データについては、1分ごとに解析・上書きを繰り返し、システム内には、直近の加工後データ1画像のみを保存。 また、加工に伴い抽出する混雑度情報は、統計情報として保存。 ただし、既存の防犯目的での保存は行う。
データ移行	通信経路	外部からのアクセスを完全に遮断した環境上で実施。
データ公開	公開する画像	人物をアイコン化して混雑度を表現した画像を公開。 公開画像は、無人の背景画像にアイコン化した解析結果を重畳するため、万が一、人物認識漏れによる未加工が生じたとしても公開されない。 ※公開画像上は、未処理人物が表現されない